

院長挨拶

平成 22 年 4 月 1 日

片岡 慶正

この四月一日に三澤信一前院長の後任として大津市民病院院長に就任いたしました。一言ご挨拶を申し上げます。昨年度は新型インフルエンザの嵐の中で政策医療の一翼を担わせていただきました。おかげさまで“市民の健康と生命を守る”市民病院としての一定の役割を果たすことができました。これもひとえに皆様方のご協力の賜物と感謝申し上げます。未曾有の経験の中で市民病院にとっては本院の理念と責務を職員全員が再認識する良い機会でもありました。今後も地域医療と政策医療の両面から市民の生命と健康を守る使命を職員一同結束して邁進いたします。

加速度的な高齢化社会、疾病構造の変化、医療技術の高度化あるいは情報の共有化などに伴い、地域医療に対する市民のニーズはますます高度化、多様化しています。生きる喜びと希望を大切に”患者中心の医療”の実践を理念に『市民とともに歩む市民病院』の果たすべき役割と方向性を見据えたディレクター役を拝命しました。現在 3 年計画での病院改革プランを着実に遂行する中で、経営基盤の健全化策として真に求められるのは意識改革とモチベーションの向上です。

地域医療支援病院として救急医療はもとより高度先進医療を優しく、安全に、迅速に、的確に提供する。この使命と誇りを旗頭に、職員すべてが医療人として自らの職種のプロ意識の原点に戻り、“患者とともにある全人的医療”遂行のために今何ができるのか？この問いに対して自らが『もう一つできること』を合言葉に歩んでまいります。

“良質な医療の提供と選ばれる病院”は職員すべてのチームワークの結集の成果であり、診療科および職種横断的連携はもとより地域医療の連携において“心の通ったネットワーク構築”の充実と“結いの医療”の強化こそが、病院運営の基本と認識しております。自分の歩んだ消化器病学で学んだ『何でも呑み込む』精神で、“聴す（ゆるす）”ことと“念う”（おもう）ことから出発する所存です。

皆様方のご支援、ご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

“結い”（ゆい）：参考；びわ湖大津、結いの観光

“聴す”（ゆるす）：しっかりとよく聴くこと

“念う”（おもう）：心に刻む強い思い